

令和元年6月6日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02173

研究課題名(和文)独裁政権下のスペイン演劇 検閲と戦った二人の劇作家の明暗

研究課題名(英文) Spanish Theatre Under Franco's Dictatorship - Two Playwrights Struggling Against the Censorship

研究代表者

岡本 淳子 (Junko, Okamoto)

大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・准教授

研究者番号：40635132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：毎年スペインの総合公文書館に赴き、研究対象である2人の劇作家の作品に対する検閲報告書を閲覧し、重要と思われる資料および検閲された台本のデジタルコピーを依頼、入手した。ブエロ・バリエホ作品の検閲報告書はすべて和訳し、2016年から18年の3回にわたり大阪大学外国語学部スペイン語部会の紀要に掲載した。研究成果の口頭発表は、国内は2016年に日本イスパニヤ学会で、海外は2016年にストックホルム大学、2018年にベオグラード大学で開催された国際演劇学会(IFTR)で行った。その後、研究成果をまとめた論文が、イスパニヤ学会の学会誌『イスパニカ61号』と、大阪大学の『言語文化研究45号』に掲載された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本ではスペインの独裁政権時代の検閲に関することは歴史書でごく簡単に触れられることはあっても専門書などは出版されていない。今回、フランコ時代の演劇上演に関する検閲の手順、項目、基準、検閲官についてまとめ、当時の検閲の実態を日本語で紹介することができた。ブエロ・バリエホ作品のすべての検閲報告書および関連文書の和訳は、作家研究のみならず、スペイン現代史の研究にも寄与するものと思われる。加えて、検閲報告書を読み解き、ブエロ・バリエホとサストレというこの時代の2大劇作家の検閲との戦いが明暗を分けたという事実およびその要因を提示したことは、検閲については権力と演劇の関係を考えるうえで意義深いことである。

研究成果の概要(英文)：Every year I went to the General Administration Archive in Spain to read censorial files and request digital copies of some important documents and censored scripts, which were all obtained. I translated the censors' reports about all the plays of Buero Vallejo into Japanese and published them in the bulletins of the Spanish Department of the Osaka University from 2016 to 2018. I did oral presentations of my investigation's results in the conferences of International Federation Theatre Research, at Stockholm, Sweden in 2016 and Belgrade, Serbia in 2018. I also did an oral presentation in a domestic conference of Japanese Association of Hispanists in 2016 and wrote a paper for its bulletin. I wrote other paper for a journal called Studies in Language and Culture regarding the relation between Buero Vallejo and censorship.

研究分野：スペイン演劇

キーワード：スペイン 演劇 独裁制 検閲 ブエロ・バリエホ サストレ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 日本ではスペインの独裁政権時代の検閲に関することは歴史書でごく簡単に触られることはあっても専門書などは出版されていない。劇作家アントニオ・ブエロ・バリエホの作品を研究してきた者として、当作家が長年戦った検閲とはいかなるものだったのか、その実態を明らかにしたいと考えた。
- (2) 言論統制が行われたスペインの独裁制時代、多くの知識人がヨーロッパやラテンアメリカ諸国に亡命した。その状況下でスペインに留まった2人の劇作家、アントニオ・ブエロ・バリエホとアルフォンソ・サストレはともに検閲と戦いながら劇作を続けた。執筆したほぼ全作品が検閲を通ったブエロ・バリエホと上演の機会に恵まれなかったサストレはともに独裁制国家やその社会を批判する作品を書いている。彼らの明暗を分けたものは何だったのか、その要因を明らかにしたいと思った。

2. 研究の目的

- (1) 演劇上演に対するフランコ時代の検閲についての概要を明らかにする。具体的には、検閲の手順、検閲官、検閲報告書の項目、検閲基準等について先行研究あるいは検閲報告書を基にして整理することで、当時の演劇上演と検閲との関係を明らかにする。
- (2) ブエロ・バリエホとサストレそれぞれの作品に対する検閲報告書およびその他の検閲関連書類を分析し、2名の劇作家と検閲局あるいは検閲官との関係を明らかにする。
- (3) 最終的に、ほぼ全作品を上演することのできたブエロ・バリエホと、検閲局からなかなか上演許可が得られなかったサストレという対極的な二人の劇作家の明暗を分けた要因を論証する

3. 研究の方法

- (1) フランコ政権が施行した「出版法」および検閲に関する先行研究を読み、その概要をまとめる。また、検閲報告書の項目については実際にスペインのアルカラ・デ・エナーレスの総合公文書館で実物を確認する。
- (2) 上記の総合公文書館にて、今回の分析対象であるブエロ・バリエホとサストレの作品に対する検閲報告書および検閲された台本を閲覧し、重要と思われる書類および削除や修正の指示が書き込まれている台本のデジタルコピーを依頼する。
- (3) 検閲報告書に書かれた検閲官のコメント、および台本に記された削除や修正の指示を分析し、当時の検閲で問題とされたテーマや言葉遣いを明らかにする。
- (4) 検閲官のコメントに加え、上層部が作成した報告書、作者と検閲局との間で取り交わされた書簡をも分析し、ブエロ・バリエホおよびサストレと検閲との関係を考察する。最終的には、成功者と挫折者として比較対照される二人の劇作家の明暗を分けた要因を論証する。

4. 研究成果

- (1) フランコ時代の検閲に関する先行研究を読み、演劇上演に関する検閲の手順、項目、基準、検閲官などについて概要をまとめ、論文「演劇上演に対するフランコ体制下の検閲 アントニオ・ブエロ・バリエホ作品の検閲報告書から読み解く」の中で紹介した。
- (2) 研究対象である2人の劇作家の作品に対する検閲報告書および関連書類を閲覧し、重要と思われる資料および検閲官による削除・修正指示のある台本のデジタルコピーを依頼し、入手した。
- (3) ブエロ・バリエホ作品の検閲報告書および関連文書はすべて和訳し、2016年から18年の3回にわたり大阪大学外国語学部スペイン語部会の紀要に掲載した。
- (4) 研究成果について、国内は2016年に日本イスパニヤ学会で、海外は2016年にストックホルム大学、2018年にベオグラード大学で開催された国際演劇学会(IFTR)で口頭発表をした。
- (5) 研究成果をまとめた論文が、イスパニヤ学会の学会誌『イスパニカ61号』と、大阪大学の『言語文化研究45号』に掲載された。
- (6) ブエロ・バリエホの作品中、フランコ政権下で唯一上演許可が下りなかった『バルミー医師の二つの物語』を分析した論文がスペインの教育・文化・スポーツ庁の下部組織である「演劇資料センター」が発行しているデジタル演劇研究誌『ドン・ガラン』のブエロ・バリエホ生誕100周年記念号に掲載された。本論は、2014年に出版された『現代スペインの劇作家アントニオ・ブエロ・バリエホ 独裁政権下の劇作と抵抗』(岡本淳子、大阪大学出版会)のなかの1章のスペイン語訳であるため、厳密には当該基盤研究でなされた研究ではない。しかしながら、2016年にスペイン語に訳した論考がスペインのデジタル雑誌に招待論文として掲載されたことは、非常に大きな意味を持つと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6件)

岡本淳子、演劇上演に対するフランコ体制下の検閲 アンтониオ・ブエロ・バリエホ作品の検閲報告書から読み解く、言語文化研究、大阪大学言語文化研究科、査読有、45号、2019、pp. 37-58、DOI : <https://doi.org/10.18910/71631>.

岡本淳子、スペインの劇作家アルフォンソ・サストレと検閲 1950年代前半の作品を中心に、イスパニカ、日本イスパニヤ学会、査読有、61号、2018、pp.185-208、DOI: <https://doi.org/10.4994/hispanica.2017.185>.

岡本淳子、(資料翻訳) アンтониオ・ブエロ・バリエホの検閲関係書類(3)、Estudios Hipanicos、大阪大学外国語学部スペイン語部会、査読無、42号、2018、pp.19-49.

岡本淳子、(資料翻訳) アンтониオ・ブエロ・バリエホの検閲関係書類(2)、Estudios Hipanicos、大阪大学外国語学部スペイン語部会、査読無、41号、2017、pp.19-44.

岡本淳子、(資料翻訳) アンтониオ・ブエロ・バリエホの検閲関係書類、Estudios Hipanicos、大阪大学外国語学部スペイン語部会、査読無、40号、2016、pp.1-38.

Junko Okamoto, Estrategia de Antonio Buero Vallejo para la Historia Oral: Desmantelamiento del mecanismo ideológico del Estado en la Doble historia del doctor Valmy, Don Galan, Centro de Documentacion Teatral, Invited paper, No.6, 2016, http://teatro.es/contenidos/donGalan/donGalanNum6/pagina.php?vol=6&doc=1_8&pag=10.

〔学会発表〕(計 3件)

Junko Okamoto, Migrating Audience as Strategies to Clear Censorship in Franco's Spain – In the Case of Buero Vallejo and Sastre, International Federation of Theatre Research, at Belgrade University, Serbia, 2018.

岡本淳子、フランコ時代の検閲 アルフォンソ・サストレの場合、日本イスパニヤ学会、神戸市外国語大学、2016.

Junko Okamoto, The Spanish History of the 20th Century Seen Through the Censorial Archives – In the Case of 2 Major Spanish Playwrights under the Dictatorship –International Federation of Theatre Research, at Stockholm University, Sweden, 2016.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。